

北病院

# 耳より情報



## どんなタイプか正しく 知ろう！

北病院外来  
糖尿病看護認定看護師  
前田 るみ



春といえば甲子園、地元はもとより故郷の出場校の応援に力が入る方も多いのではないのでしょうか。

今回は糖尿病の病態(身体機能の状態)を、野球のバッテリーに例えてみました。血糖値が上がると、ピッチャー(膵臓)がインスリンというボールを投げます。キャッチャーである肝臓、筋肉、脂肪組織(インスリンが作用する部位)がボールを受け取ると、血管の中の血糖を取り込むので血糖が下がります。日本人は、ピッチャーが上手くボールを投げられないタイプが多く(インスリン分泌が低下するタイプ)2型糖尿病になる主な原因といわれていますが、肥満型の糖尿病の場合、ピッチャーはボールをどんどん投げるのですがキャッチャーが上手くキャッチできず(インスリンの効きが悪いタイプ)インスリン過剰で肥満になります。ご自身のタイプを知り食事や運動に活かし、薬を使用している場合どの部分に作用するか知ることとはとても重要になります。



インスリンの効くところ  
(肝臓、筋肉、脂肪組織)



インスリン



膵臓  
(インスリンを分泌する細胞)